

# 令和8年度実証事業(実証事業A・B)の実施

---

令和7年12月24日  
国土交通省 中国運輸局

# 令和8年度実証事業(実証事業A・B)の実施

## 1. 令和8年度実証事業(案)(実証事業A)

### (名称案)

令和8年度芸備線再構築に関する実証事業(仮称) ※実証事業Aパート：一部継続

### (目的)

- ・調査事業Aで提案された、実証事業Aで取り組むことが望ましいとされた施策等を実施し、調査事業Aで試算した地域経済効果の発現を最大化するとともに、その結果を踏まえ調査事業Aの地域経済効果の試算が妥当であったかどうかを検証する
- ・構成員からの意見を踏まえ、令和8年4月～6月において必要な施策を継続して実施する

### (施策の概要)

令和7年度の実証事業Aのうち、以下の施策を継続して実施する(2.～5.の委託を想定)

#### 1. 住民・来訪者利用に合わせた鉄道サービスの拡充・二次交通との連携強化

臨時列車運行(令和7年7月19日～11月24日の土休日)と同様の列車運行や二次交通の運行を実施

#### 2. 企画乗車券の設定等

観光施設の割引利用券の設定等

#### 3. 観光ツアーの造成

臨時列車運行に合わせた観光ツアーを造成

#### 4. プロモーションの実施

ランディングページの継続や事業全体のプロモーションを実施

#### 5. 既存事業の強化・支援

地域が主体となって実施する取組について、その支援やプロモーションを実施

## 2. 令和8年度実証事業(案)(実証事業B)

### (名称案)

令和8年度芸備線再構築に関する実証事業(仮称) ※実証事業Bパート:新規

### (目的・考え方)

- ・これまでの議論を踏まえれば、最適な交通モードを議論するに当たっては、鉄道と鉄道以外の他の交通モードの地域経済効果の比較検討を中心に行っていくこととなっている  
※なお、最適な交通モードを判断するに当たっては、データとファクトに基づき、その他の要素も踏まえ総合的な判断を行う
- ・このため、調査事業A・実証事業Aの実施プロセスと同様に、令和7年度の新調査事業において試算する他モードの地域経済効果の検証等を行うため、住民や来訪者などの利用者ニーズや交通事業者の現況を踏まえた上で、実証事業Bを実施することとしたい

### (実証する交通モードの選択)

- ・上記の考え方のとおり、実証事業Bにおいては、鉄道以外の他の交通モードを選択して実証に取り組むこととなっている
- ・実証実験として運行する他の交通モードの選択に当たっては、LRT・BRT・乗合バス・乗合タクシー・日本版ライドシェア・公共ライドシェアなど、複数の選択肢が考えられるが、
  - ・通勤・通学時間帯の定期的な運行など、データ取得すべき利用状況(日常利用・観光利用)を踏まえた輸送力を確保する必要があること
  - ・LRTなど大規模整備を要する交通モードは、単年度の一定期間を区切った実証実験にはなじまないことから、実証事業Bにおいて取り扱う交通モードとしては、路線定期型の乗合バスを基本として実証に取り組むこととしたい

# 令和8年度実証事業(実証事業A・B)の実施

## (施策の概要)

他モードによる地域経済効果の検証等を行うため、以下の施策を実施する（3.～8.の委託を想定）

1. 芸備線沿線の日常利用向けのバスの実証運行
2. 芸備線沿線の観光利用向けのバスの実証運行
3. 日常利用者を対象とした乗車モニター調査
4. 企画乗車券の設定等
5. 観光ツアーの造成
6. プロモーションの実施
7. 既存事業の強化・支援
8. 委託事業に関するデータの収集・分析

## (事業委託：実証事業A・B)

- ・令和8年度実証事業の委託先の選定に当たり、公募等の契約手法を今後検討していく
- ・実証事業Aパート（臨時列車運行を除く）・実証事業Bパート（日常利用向けのバスの実証運行等を除く）を合わせ、「令和8年度芸備線再構築に関する実証事業（仮称）」として同一事業者へ委託することを想定

## 具体的内容

### 1. 芸備線沿線の日常利用向けのバスの実証運行（実証B）

- ・ 平日の芸備線の運行に合わせたバスの実証運行として、芸備線沿線の主要道路を幹線的に運行するバスの実証運行を実施
- ・ 運行区間や運行ダイヤ等については、利用の利便性向上を図った上で、利用者ニーズや交通事業者の状況を踏まえて設定

### 2. 芸備線沿線の観光利用向けのバスの実証運行（実証B）

- ・ 来年度の実証事業Aにおける臨時列車運行（下記4.）終了後、土休日の臨時列車運行と同等の運行区間・運行時間帯において、バスの実証運行を実施

### 3. 日常利用者を対象とした乗車モニター調査（実証B）

- ・ 定期券利用者などの芸備線の日常的な利用者を乗車モニターとして設定し、モニターに1.のうちあらかじめ日時を指定したバスに複数回の乗車を依頼した上で、乗車時間・乗り心地・利便性などについてモニターからのアンケート調査等を実施

### 4. 住民・来訪者利用に合わせた鉄道サービスの拡充・二次交通との連携強化（実証A）

- ・ 臨時列車運行（令和7年7月19日～11月24日の土休日）と同様の列車運行やこれに合わせた二次交通の運行を令和8年4月～6月に実施

## 具体的内容

### 5. 企画乗車券の設定等（実証A・B）

- ・観光施設の割引利用券とセットになった企画乗車券の設定、鉄道とバスの相互利用可能な企画乗車券の設定のほか、バスの乗継割引などの運賃割引を実施

### 6. 観光ツアーの造成（実証A・B）

- ・土休日における芸備線の臨時列車運行やバスの実証運行に合わせて、観光ツアーを造成

### 7. プロモーションの実施（実証A・B）

- ・令和7年度に開設したランディングページやSNSの取組を継続し、実証事業A（鉄道）や実証事業B（バス）の運行情報、沿線地域に関する取組などのプロモーションを実施

### 8. 既存事業の強化・支援（実証A・B）

- ・実証事業A（鉄道）や実証事業B（バス）のそれぞれの実施期間において沿線地域で実施される取組について、取組の支援やプロモーションを実施

### 9. 委託事業に関するデータの収集・分析（実証A・B）

- ・実証事業A・Bにおいて得られたデータに基づいて、他の交通モードの地域経済効果の検証を実施
- ・検証結果については、鉄道と他モードの地域経済効果の比較検討等を行うため、「芸備線再構築方針作成等に関する調査事業（仮称）」において活用